

早期修了プログラム達成度評価シート【教員用】

提出日：平成26年○月○日

履修(希望)者氏名：筑波 太郎

(希望)専攻：リスク工学専攻

指導(希望)教員名：宮本定明

指導(希望)分野：ソフトウェアエンジニアリング、特にメタ戦略とその応用

評価教員名(複数可)：宮本定明、岡本栄司、遠藤泰典、佐藤美佳

観点	項目	評価レベル				評価の根拠	その他のコメント
		入学時 審査時	中間 審査時	予備 審査時	最終 審査時		
知識・能力	① 専門基礎：入学者の専門分野について、博士の学位にふさわしいレベルの基礎能力を有しているか。	A				リスク工学のソフトウェアエンジニアリング分野として、メタ戦略に関する十分な知識と基礎能力を有していることが論文から判断できる。国際誌に論文発表していることも評価できる。	
知識	② 関連分野基礎：専門に関連した分野について、専門分野ほど深くはないとしても、博士の学位にふさわしいレベルの基礎能力を有しているか。	A				申請者が主張しているように、申請者の研究領域の広さからみて、ソフトウェアエンジニアリング関連分野基礎についても博士レベルと判定して差し支えない。	
分析力	③ 現実問題に対する分析力：現実の問題について、博士の学位にふさわしいレベルのセンス・見識を備えているか。	A				申請者の主張は研究履歴からみて、現実の問題に接し、十分な知識を有していると判定できる。	
教養	④ 広い視野：博士の学位にふさわしい視野の広さを有しているか。	A				申請者の主張は正しいと思われるが、工学倫理あるいはリスクマネジメント関係を強化することによって、万全となる。	
総合力	⑤ 問題設定から解決まで：専門的応用能力である問題設定から解決までのプロセスを理解し、具体的解決に導くことができるか。	A				申請者がこれまで行ってきた開発プロジェクトは、いずれも問題設定から解決までのプロセスを理解し、解決に導くという過程を必要とする。従って、十分な経験を有していると判定できる。	

表現力	⑥ コミュニケーション能力と国際的通用性:博士の学位にふさわしいプレゼンテーション能力とコミュニケーション能力を有し、専門分野において国際的に通用する学識を備えているか。	A				申請者の主張と、発表リストを照合し、いずれも筆頭著者であることから、学会発表におけるプレゼンテーション経験は十分であることがわかる。申請者が主張するように、国際学会での発表経験は十分である。	
総合力	⑦ 学術的成果:博士の学位を授与してよいと判定できる学術的成果を有しているか。	A				リスク工学におけるソフトコンピューティング分野の水準として、査読付き学術雑誌論文2編、国際会議論文5編は十分な成果であると判定する。	

注1: 評価については、「A(博士の学位にふさわしいレベル)」、「B(修士の学位レベル)」、「C(学士の学位レベル)」とし、それらを基準として評価を行う。

注2: すでに「A」評価とされた項目については、「評価の根拠」欄に「達成済み」と記載すること。
ただし、その場合でも、さらなる進歩(例えば、新規能力の獲得、公表論文数や学会発表数の増加)などがある場合は、それらを付記してよい。

注3: 入学時審査時に「C」評価とされた項目がある場合は、プログラム履修生として不合格とする。

注4: 予備審査時審査終了時には、全ての項目について「A」評価であることが必要である。

注5: 達成度評価の結果および改善点については、履修生にフィードバックすることが望ましい。